



血液内科

王 碩林



腫瘍内科医

山下 芳樹



## 医局のリアル vol2

Q.今日は血液内科の王先生にお話を聞いていきたいと思えます。王先生は、2021年10月から三重大病院・血液内科医員になりました。医師になって何年目ですか？

W.5年目です。

Q.初期研修から今までの経歴を簡単に教えていただけますか？

W.三重大を卒業後、初期研修の2年間は済生会松坂総合病院で過ごしました。その後、伊勢赤十字病院で後期研修を行い、大学病院に戻ってきました。

Q.王先生は、卒業と同時に三重大の血液・腫瘍・感染症内科に入局されましたよね？どうして卒業と同時に入局しようと思ったのですか？

W.臨床実習の時から血液内科に興味をもっていました。血液・腫瘍・感染症内科の研究会や忘年会に顔を出して先生方と接するうちに、卒業前に入局を決心しました。医局の雰囲気も良かったので、特に迷うこともなく自然に決めました。

Q.卒業後すぐに入局してよかったと思うことは？

W.医局に入局していなければ、済生会で初期研修後に伊勢赤十字病院に移ることは出来なかったと思います。私は自分から積極的に転勤を希望したりするのは苦手な方なので、済生会病院は居心地も良く、気に入っていましたので、入局していなければ、今でも済生会にいたかもしれません。転勤するようになったときは、少しストレスに感じましたが、振り返ると経験の幅が広がってよかったと思います。

### 振り返ると経験の幅が広がってよかったと思います

Q.なるほど。「経験の幅」という視点でみると、医局の雰囲気や気質によっては、入局すると将来の可能性が狭まるのでは？と心配する若い先生もいらっしゃるのでは？

W.私の場合は、血液・腫瘍・感染症内科の先輩方から入局することで可能性がむしろ大きく広がったというお話を聞いていたので、前向きな気持ちで充実した研修生活を続けられて良かったと思います。

Q.前向きな気持ちでいられたら、本当に大切なことに集中できて素晴らしいですね。研修生活を振り返ってどうですか？

W.非常に充実していたと思います。

Q.休日はきちんととれましたか？

W.休みの日も病棟に顔を出すこともあります。半日は休んでリフレッシュするように心がけています。

Q.話が戻りますが、学生時代から血液に興味も持ったのはどうしてですか？

W.血液内科の先生が、血液検査データをみて、患者さんの状態や何が起きているのかを見てきたように診断して適切な薬物療法を行っている姿がたいへん印象的でした。

Q.そのときのイメージ通りの血液内科医になりましたか？

W.いえいえ、まだまだ勉強中というのが実感ですが、少しずつでも近づけるようにと頑張っていきます。

Q.大学に戻ってから、新しい経験をたくさん積んで、新たな可能性を発見できると思いますか？

W.はい、今はまだ緊張気味ですが、楽しみです。

Q.今日はいろいろお話を聞かせていただいてありがとうございます。